

書評

運動器超音波解剖学 3D 解剖モデル・臨床画像・ 超音波ガイド下治療

監訳：熊井 司・中島祐子

B5 変型判・624 頁

定価：19,800 円（本体 18,000 円＋税 10%）

メディカル・サイエンス・インターナショナル刊、2026 年

運動器超音波を学ぶ理学療法士のための 包括的实践書

【評者】小林 匠 群馬大学医学部保健学科理学療法専攻

本書『運動器超音波解剖学—3D 解剖モデル・臨床画像・超音波ガイド下治療』は、運動器超音波を基礎から臨床応用まで体系的に学ぶための、きわめて完成度の高い教科書である。近年、理学療法領域においても超音波画像装置の活用は急速に広がっている。筋、腱、靭帯、滑液包、末梢神経などの形態や動態を非侵襲的かつリアルタイムに評価できる超音波は、病態理解だけでなく、運動療法や徒手療法の臨床推論を深化させるうえで意義が強い。一方、超音波画像を適切に解釈するためには、超音波の基本原理やプローブ操作、アーチファクトの理解、三次元的な解剖学的知識が不可欠であるが、本書は、その学習上の障壁を丁寧に取り除く構成となっている。

本書の特徴は、超音波画像装置に関する基礎的知識から始まり、上肢、下肢、末梢神経に至る各部位の解剖と病態を広範に網羅している点である。特に、三次元的な解剖図と実際の超音

波画像を対応させて提示しているため、プローブをどの方向に当て、どの断面で何を観察しているのかを視覚的に理解しやすい。また、フルカラーで多数のイラストや写真、超音波画像が掲載されており、視覚教材としての価値も非常に高い。各部位における病態や異常所見についても丁寧に解説されているため、臨床で遭遇する運動器疾患を画像所見と結びつけて理解することもできる。さらに、末梢神経の超音波画像に多くのページが割かれている点も特筆すべきであり、絞扼性神経障害や外傷後の神経病変など、評価・介入の過程で理解すべき領域に対して、解剖と画像の両面から学ぶことができる。

本書は臨床家の自己学習にとどまらず、養成校における講義教材としても有用である。機能解剖学や運動器理学療法学などの授業において、三次元解剖図と超音波画像を併用することで、体表から観察される構造と深部組織の位置関係が具体的に

理解しやすくなる。特に、従来の教育では理解が困難であった筋、腱、靭帯、末梢神経の立体的走行や隣接関係を、臨床画像と関連づけて学習できる点は教育的意義が大きい。そのため、初学者に対する導入教材としても、臨床実習前後の応用的教材としても活用し得る内容である。

近年、運動器超音波に関する書籍は急増しているが、本書は超音波の基礎や部位別の描出技術、正常解剖、病態所見を一冊で包括している点で他書とは一線を画す内容である。価格は一般的な専門書と比較して高額ではあるが、情報量と実践性を考えれば、運動器超音波を本格的に学ぶための中核的教材として十分な価値がある。本書は、これから超音波を用いた運動器リハビリテーションを学びたい理学療法士、解剖学的理解をさらに深めたい臨床家、そして運動器理学療法教育に携わる教員に、強く推薦したい一冊である。

